

# 教員採用試験を終えて

国文学科4年 南 千 映 子

## 1、教員を目指したきっかけ

私が教員を目指したきっかけは、女手一つで私を育ててくれた母の影響が強くあります。教員として働いている母に連れられ、幼い頃からよく学校に行く機会がありました。その度に、生徒と一生懸命向き合い、生徒と楽しそうに活動し、指導する母の姿に憧れを抱いていました。その頃から漠然と教師ってカッコいいな、母のようになりたいな、と思うようになりました。またさらに、中学校時代に出会った部活動の顧問の先生に大変感銘を受け、教師を目指すことを決断しました。その先生は、大会で優勝する、好成績を残す、という結果だけではなく、一つの目標に向かって本人がどれだけ頑張れたか、努力できたか、という過程を認めてくれる先生でした。自分をいつも見てくれている、認めてくれる先生の存在は思春期で不安定だった私の心の支えでした。目に見える結果だけではなく、目に見えない生徒のしんどさや頑張り、努力に気づき、力になれる教師になりたいという目標ができました。

## 2、採用試験に向けて

大学に入学してからも、この想いは変わらず、教師になることが私の夢でした。しかし、具体的にどういった勉強や準備が必要なのか、無知な状態だったので1・2年次には一般教養試験対策講座を受講しました。3年次には、少しでも教育に携わりたいという思いから、塾の講師や、京都府の中学校での学習支援サポーターを始め、教師力を磨くことを心がけていました。筆記試験に向けて、本格的に勉強を始めたのはこの頃で、友人を誘い日々学校の図書館や研究室に通っていました。

筆記試験の中で私が力を入れたのは、専門科目である国語と教職教養です。専門に関しては大学入試基礎の問題集を繰り返し解いていました。教職教養は問題集1冊と毎月発行される『教員養成セミナー』の問題を完璧に出来るようになるまで解き、暗記の部分は友人と問題を出し合って勉強しました。3年次には教員採用試験対策講座も受講しており、その中で頻出の問題や絶対におさえておくべきポイントを指導して下さったので、勉強し

やすかったです。3年次の後期頃からは、中戸義雄先生主宰の「教職学習会」に参加し、教育に関するテーマのディスカッションや自己PRの練習を何度も行いました。教職を目指す仲間とじっくり討論できる場があったことで、視野が広がり、自分自身の考えを見直す良いきっかけになりました。また、学習会の先輩方から教育実習のお話や、採用試験についてのアドバイスもいただけたので、本当にありがたかったです。

4年次の4月になると、教育実習に向けての準備も本格的に始めました。母校での実習は、楽しみであると同時に不安で不安で仕方がなかったです。なので、「教職学習会」を中心に何度も模擬授業をしました。授業を受けてもらった友人や先生から意見を聴いたり、自分の授業をビデオで撮影し、終わった後に見返したり（何度も目をそらしたくなりましたが…）することで、自分の力不足を痛感するとともに改善点が少しずつ見えてきました。失敗から学ぶ事、それが何よりも大切だと今でも感じています。

実習が終わってからは、すぐに採用試験です。筆記の勉強に加えて、「教職学習会」で集団討論や面接の練習にも力を入れました。面接練習や討論を繰り返す事で、教育に対する考え方や自分の意見などが深まりました。その際、私は自分独自の『面接ノート』を作っていました。中身は面接試験でよく問われる質問集を参考に、どんなことを質問されても自分の考えを述べることができるように、キーワードを挙げて自分の言葉でまとめていったものです。自分の言葉でまとめていくことで、最も主張したい事や伝えたいことが明確となるので、面接ノート作りをお勧めします。友人と何度も面接練習を繰り返すことで、様々なアドバイスをもらえたり、相手の良い部分を吸収することが出来たりと、すごくプラスになりました。一次試験を突破できた後も、二次試験に向けて友人や先生のお力を借り、模擬授業の練習もさせていただきました。本番の面接試験に自信を持って臨めたのは、周りの仲間たちの協力と共に考えを深め合うことができたこの経験が活かされたからだと思います。その結果、運良く京都府の中学校国語の採用試験に合格する事ができました。

### 3、今後の抱負

教育実習や学習支援サポーターで実際の学校現場に行ってみると、まだまだ自分の未熟さ、至らなさを痛感し、自信をなくすこともありました。しかし、それ以上に私は生徒が一生懸命勉強や部活動に打ち込む姿や、生徒たちの笑顔に励まされ、生徒一人一人の人生の一部に関わることのできる喜びを感じました。

4月から私も実際に教壇に立ちます。新任であれ、生徒たちにとっては一人の教師に変

わりありません。その自覚と、ここまで支えてくれた周りの友人や先生、家族への感謝の気持ちを忘れることなく、生徒たちとしっかり向き合っていきたいです。一人一人の頑張りや喜び、悲しみやしんどさに気づき、受け止めていける教師になりたいと思います。

これから採用試験を受けるみなさんには、失敗を恐れず、自分の夢に向かって様々なことに挑戦してほしいと思います。大学4年間での出会い、経験は本当にかげがえのないものです。この4年間での喜びや楽しかった経験、辛く苦しかった経験も全て自分自身の成長へと繋がる大事な一歩です。周りの人への感謝を忘れず、夢実現のために一日一日を大切にしてください。私自身も、これから実際の現場で多くのことを学び、吸収し、成長していけるよう努力していきます。